

トピックス
1. 映画評 アルキメデスの大戦
2. 葉月 ～少年時代～



福留経営労務管理事務所
 姫路龍馬会
 社会保険労務士・行政書士
 福留章

<h1>龍馬通信</h1>	No. 20
	2019年8月号

葉月 ～少年時代～

入道雲 雷 夕立ち 蚊取線香 風鈴 てんか粉
 縁台将棋 夕涼み ボンボンベッド
 天満宮 夏祭り 夜店 アセチレンガス わた飴 ラムネ サイダー かき氷 みかん水
 浜の松風(ミニカステラ) りんご飴 金魚すくい 水中花 走馬灯 お化け屋敷
 海水浴 越中ふんどし 麦わら帽子 海の家 砂あそび すいか割り 水中めがね
 市営プール カルキ消毒
 螢狩り 蟬とり 蟬しぐれ 鈴虫 カブト虫 クワガタ 林間学校 川遊び
 キャンプファイヤー 花火大会 打ち上げ花火 ナイヤガラの滝 ロケット花火
 線香花火 2B弾
 ソフトボール 草いきれ 鉄管ビール 夏休みの友 自由研究 絵日記 地藏盆
 最後に暑くて臭いぼットン便所 落とし紙
 懐かしく、ほろ苦く、やがて愛(かな)しく…。
 過ぎ去りし少年時代。昭和は遠くなりけり。

P.S 神戸生まれの私は小学校3年生から高校3年生までの少年時代を第二の故郷、土佐の高知で
 過ごしました。猛暑の夏になりそうです。ご自愛ください。

随筆 『龍馬と私』 ～土佐という国～



野山兼山

山内一豊は入封に際して、徹底的弾圧を断行。かつて長宗我部氏の下級家臣だった「一領具足」が徹底抗戦した浦戸一揆がおきたが、一豊はこれを討伐。結果長宗我部の家臣団の上層部は出国、一領具足の殆どは帰農して兵農分離が実現する。一領具足はやがて「郷士」となっていく。これが土佐一国に厳然とした差別制度が根付く端緒となる。

山内一豊は、大高坂山に河中城(後に高知城)を築き、高知の城下町造りを始める。以後、山内家は一度も移封、転封されることなく幕末に至るまで15代にわたり土佐一国を統治する。

坂本龍馬は天保6年(1835年)この土佐国、高知城下(今の高知市上町)の町人郷士、坂本家の次男として生まれる。「郷士」とは何か。そもそも郷士とは、武士の身分階級の一つ。農村に住む、苗字帯刀を許された下級武士をさす。一豊の時代にはほとんどの一領具足は武士の身分を否定されたため、農民にならざるを得なかった。一部の者は庄屋に任命されたりもしたが、ほとんどは不平不満を募らせたまま貧しくひもじい生活を余儀なくされた。一人の救世主が現れる。高知では有名であるが、土佐藩家老 野中兼山である。いつ蜂起するかもしれない不平分子を懐柔し、土佐藩の財政改善に役立てる妙策とは何であったか。(以下次号)



映画『アルキメデスの大戦』

監督：山崎貴

出演：管田将暉 柄本佑 浜辺美波

笑福亭鶴瓶 小林克也 小日向文世

國村隼 橋詰功 田中泯、舘ひろし他



CGを駆使した息詰まる戦闘シーンからこの映画は始まる。

護衛する日本の戦闘機は既になく、戦艦「大和」はその巨体を敵にさらしたまま逃げ惑う。容赦なく繰り返される米軍機の波状攻撃になす術もなく運命の刻を待つ。最早世界最大を誇る大砲も出る幕がなく、艦載機の機銃掃射の前に兵士の多くが倒れた。格好の標的となった大和は全方向からくる爆弾や魚雷に次々と被弾する。

断末魔、傾いた甲板から多くの兵士がすべり落ち海上に投げ出される。やがて大和は船体を折るようにして大きな渦の中に沈没、大爆発を起こす。大日本帝国の栄光の歴史の象徴として建造された戦艦「大和」の撃沈という無残な最期は、大日本帝国の終焉を象徴するものでもあった。

場面は十数年前の帝国海軍の次期戦艦建造の決定会議にかわる。日清・日露戦争に勝利し、中国出兵、満州国建設、国際連盟脱退と、軍の独走によって戦争の足音が次第に大きくなりつつあった時代。

海軍内でも航空機を中心として航空母艦の建造を説く山本五十六少将派と、大戦艦建造を主張する中嶋源次郎少将派の激しい論争が繰り返されていた。

後世大戦艦建造は時代錯誤の極みともいうべき暴論とされるが当時、戦艦によって国威を発揚し、海外列強に対して脅威を与えることができることを信じていたグループも存在した。

帝大を中退した天才数学者が戦艦建造費の異常に低い見積もり額の矛盾を完璧な数学的な根拠を持って暴露する。それは海外列強をあざむく方便という主張にも戦艦そのものの欠陥、波高 20m で 3 本に船体が折れるという理論を展開する。方程式を間髪入れず書き連ねていくあたりは痛快だ。数字は嘘をつかないというが、どうなのだろう。数字で政治が変えられるだろうか。史実に基づくフィクションであるとの断りがあるが、どうもその点、ストーリーとして甘さを感じる。大戦艦建造派の長老が次のように主張する。

戦争が避けられないとすれば、国力の絶対的な格差から敗戦は必至。歴史上敗戦を知らない軍部と国民。日本を神の国と信じる日本人の目を覚ます為にも大日本帝国を象徴する美しい巨大戦艦を建設し、日本を意味する「大和」の名称を冠することによって内外にその栄光の歴史を誇り、国威を大いに発揚する。

その後、戦艦「大和」は日本国全国民の「よりしろ※」としてその運命を一身に負い、やがて南方の海に没する。人々は日本帝国の終焉を知り、敗戦の痛みを受け、焦土の中から新しい国作りを始めることになる。この長老の主張も正しいようで正しくない。軍人としてすべきことは敗ける戦争をしないことであり、命をかけて開戦を阻止することではなかったか。

どちらにしても、反対を押し切って戦艦「大和」は建造される。大した戦功をあげることもなく。敗戦直前に自殺的な片道燃料での出撃を余儀なくされ、そして運命的な役割を担ったまま、南海のもくずと消えた。この戦いでの戦死者 3000 名以上。エンディングロールが流れる途中で席を立った人が多くいた。映画の評価としては今一つというしかない。

※よりしろ=依り代。神霊が現れる時の媒体となるもの。

夏季休業のお知らせ

8月10日(土)～8月18日(日)です。

なお労災等、緊急の場合には、090-1961-9588 までご連絡ください。